

広 報 ま っ だ い

第四回松代町議会定例会開かる

一般会計補正予算など提上

昭和43年12月25日発行
 第128号
 東頸城郡松代町公民館
 館長 富沢清次
 電話 松代6番
 印刷 松代印刷所

十二月十七・十八日の両日にわたり第四回の町議会定例会が開かれました。
 尚当日は町の婦人会約四十名が傍聴席をうめ、一日中議会議法や、地方行政の学習を熱心に続けました。
 当日議決されました議題は次の



通りです。
 報告事項

- (1) 総務文教常任委員会調査報告
 町内各学校の營繕状況を視察し四十四年度の教育予算の参考に資するため。
- (2) 建設常任委員会調査報告
 昭和四十四年度計画予定のため道路橋梁などの調査。
- (3) 社会常任委員会調査報告
 衛生行政の先進地を視察してその知識を深め、これからの施策に寄与するため。
- (4) 昭和四十三年度松代町一般会計補正予算専決事項報告
 補正額才入才出とも二二七万円
 で農林業費へ才入は県支出金など) 応急対策用ポンプ購入費にあてる。

議第一号 新潟県町村人等事務組合を組織する地方公共団体の数の増減及び規約変更について。(このことについては松代町には関係がないので省略する)
 議第二号 職員団体の業務にもっぱら

従事する職員に関する条例を廃止する条例の制定について
 議第三号 職員の職務に専念する義務の特例に関する条例の一部を改正する条例の制定について
 議第四号 松代町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について
 議第五号 松代町職員の休日、休暇に関する条例の一部を改正する条例の制定について
 議第六号 松代町一般会計補正予算(収入支出共に一、四三九〇〇〇円を追加する)
 収入 国庫支出金 四七七万円
 町債 五四〇万円
 などが主なもので
 ◎支出 総務費 一六万円
 参議院議員通常選挙費 三十一万円
 衛生費 日脳ワクチン代他 三六八万円
 教育費 三六〇万円
 学校管理費 三六〇万円
 教育振興費 三万円
 保健体育費 四万円
 林業費 九九万円
 議第七号 新潟県町村職員退職手当組合を組織する地方公共団体の数の増減及び規約の変更について
 議第八号 松代町管住宅条例の一部改正する条例の制定について
 (入居資格の内、第一種公営住宅の入居申込日に二万円以上三万六千円の収入があるものとあるを二万四千円から四万円と改正する)
 尚その他、一般質問も行なわれそれぞれ答弁があり、提上された全議題を議決しました。

(写真は議会状況)

福島林道完成及び 福島橋渡橋式行わる

七年の歳月と二千七百万円の工
事費を以って、中員四メートル、
延長二千七百七十七メートル、永
橋十八メートル、一ヶ所がこの程
完成し、その完工式と福島橋の渡
橋式が去る十二月八日盛大に行な
われました。

部落民が一致協力して七年もの
永い間、潰地の問題、労力力の問
題、それにも増して苦しい地元負
担金の問題を克復して完成した喜
びは大きく、部落全員が集って、



(完成した福島橋)



(おごそかに渡橋式)

然も十二月には珍らしい快晴に恵
まれ、神官の祝詞も、洪海の清流
の中に消えて行く程でした。
この日、町長、町内各関係者を
初めとし、上越総合庁舎、県より
代表者も出席され、共に喜びをお
かち合う姿があちこちに見られま
した。

積極的に部落の開発に取組む、
地元の方々の、明日への村づくり
に対する熱意が、地域条件を変え
て行き、その成果が必ず期待され
ることを考えるとき、深い敬意を
表らわすと共に、今後の活動を心
から願うものです。

供米遂に五万六千俵に

昨年を六千俵も上廻る

数年来の大雪に見舞れ、その作
付けと収穫が心配されていた松代
町の本年度の米作は、その後の順
調な天候と気温に恵まれ、春先の
予想を大きく覆して豊作となり、
農家の人を喜ばせました。

町産業課の調べによりますと三
農協の供米合計は五万九千五百四
俵となり、昨年度の供米高を大き
く上廻る数量に、各農協とも、倉
庫の確保に大奮闘という現状です
各農協別の供米数は別表の通りで
すが、いずれも昨年度より二千俵

調 荷 出 米 供

| 年産別 | 松 代 | 山 平 | 奴 奈 川 | 合 計 |
|-----|--------|--------|--------|---------|
| 43年 | 27,022 | 17,276 | 14,756 | 59,054俵 |
| 42 | 24,392 | 15,173 | 12,717 | 52,282 |
| 41 | 20,617 | 13,800 | 11,522 | 45,938 |

以上多く、
この数量は
松代町で過
去最高のも
のです。

とかくに
問題になっ
ている米の
ことですが
当地方を考
えて、今後
益々生産増
強をお願い
すると共に
今年度の御
苦勞を謝す
とのことで
した。

松代家畜市場の 全日程終る

全日程終る

十一月十五日を最後に本年度の
家畜市場が終ったのでその取引状
況を地区別に纏めたのが左表です

43年度松代家畜市場成績表

| | | 松代地区 | 山平地区 | 奴奈川地区 | 松之山地区 | 浦田地区 |
|---------|--------|-------------|-----------|-----------|-----------|------------|
| 売 買 頭 数 | | 152ト | 95 | 35 | 68 | 142 |
| 売 上 金 額 | | 13,305,400円 | 8,283,800 | 3,093,800 | 5,295,200 | 12,596,300 |
| 最 高 額 | ス スキ | 127,700円 | 126,800 | 125,200 | 128,200 | 130,000 |
| | メ オ | 111,600 | 89,700 | 59,500 | 87,700 | 110,100 |
| | (去) スキ | 128,700 | 125,100 | 105,200 | 131,000 | 117,100 |
| 平 均 額 | ス スキ | 94,168円 | 90,665 | 94,767 | 85,572 | 96,795 |
| | メ オ | 70,500 | 72,050 | 59,500 | 66,916 | 75,019 |
| | (去) スキ | 86,508 | 88,745 | 83,031 | 78,845 | 82,420 |

取引頭数はこの数年、横バイ状
況ですが取引金額は少しづつ増え
ています。

切角県から和牛生産基地として
指定され野草の豊富な立地条件の
よい当地方として、今後農家経営
の中に和牛を如何に取り入れるべ
きか真剣に考えて当地の特産物と
して生産を延ばして行き度いと念
願っています。

一方、肉牛として多頭飼育農家
が漸増の傾向にあり関係者を喜ば
せているが、牛の病気も多種多様
に互り、殊に死産事故が発生して
います。家畜共済にはなるべく高
額加入をなし、損害を最少限度に
くい止めたいものです。

農業青年の声に耳をかたむけよう

過日、農業経営青年研修会に参加した、東山の山岸益夫さんがこの程、その感想を教育委員会に寄せてこられました。

町では毎年、こうした青年の方々を県内に派遣して、知識や技術を修得していただいて、その成果を地域発展の為、役立てていただく計画しております。

県内一円の青年と共に語り合い問題点の追求に一生懸命な青年の姿は、明日の町づくりにかゝせないものであるので、同君の感想文を皆さんにおしらせいたします。

農業経営青年研修会に参加して

松代町 東山 山岸 益夫

私は去る十一月十九日より十六日間におわって県農業教育センターに於て実施された農業経営青年研修会に参加して、多くのものを学ぶと共に、深く反省させられるも

のがあった。

内容は「複式簿記の理論と実務」
「経営設計の立て方と診断」を主としたものであったが、NHK推選の優秀農家に選ばれた山の内氏の事例発表や、四十二年度八三一キロあげて、多収穫県一位になった笠巻氏のお宅を訪問しての現地研修等、非常に充実した日程であった。

簿記にあつては、宿題の整理で夜の十二時までかかっても仕上げることができないというようなきびしい毎日が続いたが、研修生は皆よくやった。

こうして、研修内容はこれからの近代化農業を経営してゆく上に絶対必要なものばかりであったが私はこのほかに沢山の収穫を得ることが出来た。

その一つを上げれば、現代若人の意欲に燃えた経営態度である。事例発表後の討議、経営設計についての討議、又同期に実施された女子総合研修生との交換ミーティング等、数々の話し合いの場がもたれたが、いずれも、時間の過ぎる

のを忘れて話し合った。男性は一樣に、米作農業の将来を憂い、米十アルファを熱心に研究しており女性性は、親譲りの農業をそのまま継承してゆくような惰性的男性のところには嫁に行きたくないと訴えてきた。これは一例にすぎないが、お互に自覚と研究的態度が必要であることを確認し合った。

一見不真面目にも見える振舞いをしてる彼等が、こと経営や農業のあり方等についての話し合いになると、口角泡を飛ばして議論する姿に現代青年の生き方を知り新らたなる斗志を覚えた。

私は、此の研修会を振り返って遺憾に思うことが一つあった。それは上越地区からの参加者が少いことである。経営については私だけ、女子総合で高田、新井から各二名あっただけであった。今後、此のような研修により多くの青年が参加し、経営技術を身につけると共に、大いに意見交換の場を持ち、新しい農村造りの源動力とならんことを切望するあまり、あえてペンをとった次第である。



部落公民館めぐり

(五)

千年部落公民館の巻

千年部落は、町の中心松代にほど近く、部落祭礼など殆んど松代と同じであるが、早くより集会所の必要性を強く感じ、昭和二十三年八月、部落中央の空地に、木造二階建（階下作業場）を建築し、当時の青年会が管理の主体となり二階六十八畳（収容人員約二百名）の集会所をもった。

こゝでは部落行政制度の改革も早く行い、それが中心となって部落行政の運営をおし進めて来たが公民教育という立場で乗り出したのは最近である。この活動は、婦人会、青年会が中心となり、先ずその組織の大きさを誇る婦人会（約九十名）が、学級活動を通じて

環境衛生にのり出し、月二回の一斉消毒を初めた。勿論学習内容はそればかりではないが、自らの問題発見には遠い感がする。

一時まったく姿をひそめた青年会活動は、その面目を一新し、昨年度より活潑に動き出し、部落行政の中にも青年の声を反映させるべく真険に取組んでいる。その事が部落全体の活気を作りつつある事は事実で、青年の位置づけが再認識されている。

又老人クラブは昨年度より仲間づくりの学習体制を進めているがそれを脱皮し、より必要な学習への移行を見せ初め、視聴覚などを大いに取入れ、目でみる学問を考

えてきている。

いずれの学習グループも、そのリーダーによる所が多く、その企画や運営は常に慎重に検討されているが、今後この部落公民館は各学習団体の総合的な、公民教育の計画をたて、住民のよりよい集りの場としての機能を發揮することが強く望まれている。

その連絡調整は大変なことではあるが、この部落では今それが必要であり、又各学習団体や、婦人会、青年会などが望んでいるところではないかと感じられる。

いずれにせよ、この公民館が今や住民にとって必要欠くべからざる施設となつていふ事実に深い敬意を表すると共に、今後の運営発展を深く望むものである。

葉たばこの収納終る

本年度の葉たばこの収納も十一月二十九日より浦川原収納所で行われこの程完了したが恵まれた天候により予期以上の成績を納めた労力的に若干問題があるがこれも運用で相当軽減できるし、何んと言っても最低七割の保証と価格の安定が魅力です。

成績の概要は次のとおりです。

| 地区名 | 耕作面積(畝) | 収納代金(円) | 反当りの収納代金(円) |
|---------|---------|---------|-------------|
| 松代 | 一、三三〇 | 一五、〇〇〇 | 二五、三三〇 |
| 山平 | 二、三三〇 | 二、三三〇 | 〇、一〇九 |
| 奴奈川 | 五 | 六七、〇〇〇 | 一三、三三〇 |
| 計 | 一、六六〇 | 一七、六七〇 | 一〇、〇〇〇 |
| 種別 | 耕作反別金 | 額 | |
| 最大耕作者 | 畝 | 三〇、七九〇 | |
| 最高収納者 | 畝 | 三〇、二二五 | |
| 反当最高収納者 | 畝 | 一五、七九〇 | |

2. 交通事故防止

日増にちぢまる日あしとともに年の瀬も迫り何かと気忙しい今日このごろです。年末は人や車の出入やお金の動きが活発となり家にも外にも注意が行届かなくなりがちです。尚皆さんにおいては新聞テレビ等で見られます交通事故による死傷者数は史上空前であり、過日警察庁からの本年一月から九月までの全国の交通事故概況が発表されましたがそれによると死亡者は遂に一万三十三人を数え、毎日三十七人が死亡しており、重軽傷者は五九万一千三百三十三人で毎日二千五百五十八人が全国のだどこかで重軽傷を負っているという恐しい結果になっています。出稼者のあるご家庭では常に交通事故防止に留意し歳末を明るいものにする為次の目標をよく守り明るい新年を迎え、平和な松代町の建設にご協力を願います。

歳末事故防止

町ぐるみとなりと協力

目 標

1. 盗難防止

- ◎外出するときや夜お休みの前に必ずカギかけを励行する。
- ◎金銭の出入りの多い商店では夜は完全な(カギ)かけをわすれずに又いつも店舗に出て(スキ)を見せないこと。

3. 火災防止

- ◎火気取扱い場所の再点検。
- ◎取灰の始末は確実に。
- ◎ねる前出る前に必ず火の元をたしかめる。
- ◎ガスボンベは使用後は必ず元栓をしっかりと締めておく。
- ◎石油ガスコンロ、LPガス等の機能を確かめる。
- ◎特にLPガスのゴムホースについては(ひび割)を見た場合は急いで取替えること。
- ◎ホースには必ず(バンド)を取つけること。
- ◎ボンベを家外に出しておく家庭ではホース及びパイプが雪の為にチギレたりしないように完全に

覆いをする。

◎出入口の除雪は完全に、道路は常に広く非常の際に備えましょう。

◎各家庭には消火器を必ず備えましょう。

さあ、こぞって交通災害共済に加入しよう

県下一〇五市町村が共同で(新潟県交通災害共済組合)を組織して不幸にして交通事故を受けられた方々を皆の手で救済する制度です。この制度はわずかな会費を納めることにより交通事故を受けた会員の方はごく早い期間の内に見舞金がうけられすぐ出費に当てていただけるものです。万一に備えて一人でも多く会員となられますよう特に出稼の方方におすすめします。

◆見舞金支給の対象となる交通事故とは、

1. 運行中の車両等の衝突墜落、転覆、車両等からの転落車と人との接触その他踏切で汽車、電車等にはねられた場合などの交通事故で日本国内において発生したものをいいます。

◆会員の資格は、

1. 組合を組織する市町村に住所を有している人であつたら年令の制限なくどなたでも会費を納めた翌日から会員になれます。

◆会費は、

1. 一人一口年額三百六十円です。(但し中学生以下は一人三百円)中途加入の人は会費の割引があります。

会費納入後は中途にやめられても会費はお返ししません。

◆共済期間は、

1. 毎年四月一日から翌年三月三十一日までですが今年に限り九月一日から来年三月三十一日までです。中途加入した人は会費を納入した日から共済期間が始まります。

その他詳細については役場総務課へお尋ね下さい。